

2027年3月期 第1四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2026年8月4日

Copyright © Ushio Inc., All Rights reserved.

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

*売上高は外部顧客向け。営業利益率は、外部顧客向け売上高に対する比率を記載しております。

*IP = Industrial Process事業、VI = Visual Imaging事業、LS = Life Science事業、

PHS = Photonics Solution事業

未来は光でおもしろくなる

USHIO

ウシオ電機 代表取締役社長の朝日です。

本日はお忙しいところ、弊社「2027年3月期 第1四半期決算説明会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日、ウェブサイトにて開示した資料にもとづき、決算内容をご説明します。

2026年度 1Q業績実績：増収増益

- 社内計画を上回り推移
- IP事業、VI事業ともに堅調に推移
- 構造改革効果が発現（VI事業中心）
- 露光装置の需要拡大に伴い、一時的な評価損の戻し入れが発生し増益

2026年度 通期業績予想：据え置き

- 計画比で順調な推移も、今後の部材高騰や地政学的リスク等の不透明要素を精査中

決算トピックス

- 来期以降の露光装置売上拡大に向けて、引き合い及び受注は順調に増加

本日お伝えしたいことは、記載の3点です。

第1四半期実績は増収増益となり、売上・利益ともに社内計画を上回りました。
各事業が堅調に推移していること。
また、露光装置の需要拡大に伴い、滞留棚卸資産に対する評価損の戻し入れが発生し、増益となりました。

2026年度の通期業績予想については、計画比で順調なスタートとなりましたが、今後の部材高騰や地政学的リスクの影響など、不透明な要素を精査中のため据え置きます。

また、露光装置については、引き合いや受注が順調に増加しています。
詳しくは後ほどご説明します。

まずは第1四半期業績についてご説明します。

(スライド4ページへ)

I. 2026年度 1Q業績概要

II. 2026年度 通期業績予想

III. 決算トピックス

IV. 参考資料

売上高

489億円

前年同期比 : 106億円増 (+27.7%)

- 全体 : 半導体関連の需要増に加え、OSRAM事業買収*による効果で増収
- IP事業 : 半導体関連の需要増を背景に、光源の販売及び稼働が好調
- VI事業 : 映像演出ニーズが堅調に推移し、映像装置の販売が増加

営業利益

49億円

前年同期比 : 39億円増 (+410.5%)

- 構造改革効果が発現し、収益改善に寄与（主にVI事業）
- 需要拡大により、評価損の戻し入れ益を計上（IP事業）

親会社株主に帰属する
四半期純利益

30億円

前年同期比 : 58億円増

- 事業構造改善費用（特別損失） - 億円 (2025年度 1 Q : 36億円)

*ams-OSRAMグループのランプ事業の買収のこと。以降同様

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 4

第1四半期業績は、
売上高は106億円の増収、営業利益は39億円の増益、
四半期純利益は58億円の増益となりました。

売上高は、
半導体関連の需要が増加しているほか、映像演出ニーズの高まりにより販売が増加。
また、オスラム事業買収による増加もあり、増収となりました。

営業利益は、
取り組んできた構造改革効果がビジュアルイメージング事業中心に発現したこと。
加えて、評価損の戻し入れの発生により増益。

四半期純利益は、
前期に計上した事業構造改善費用が減少したことで増益となりました。

続いて、営業利益の増減内容をご説明します。

(スライド6ページへ)

2026年度 1 Q : 財務ハイライト



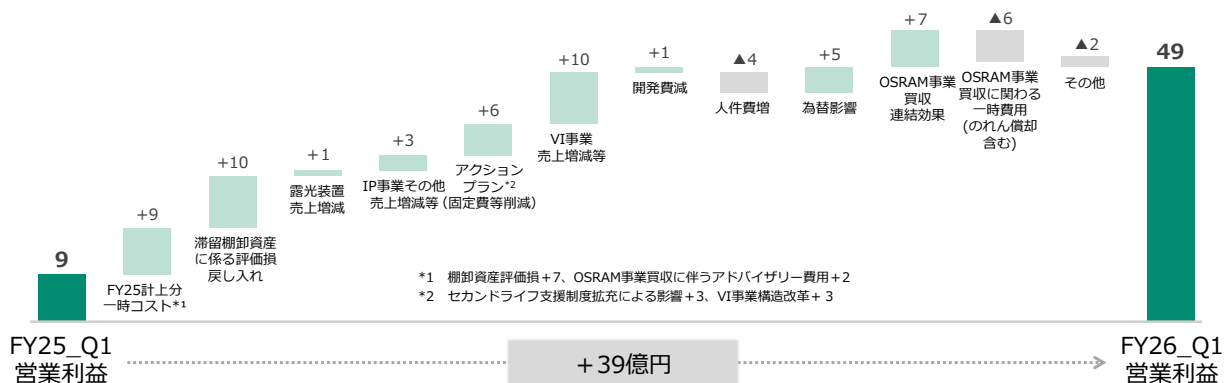
単位：億円		2025年度 1 Q実績	2026年度 1 Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高		383	489	+ 106	+ 27.7%
営業利益		9	49	+ 39	+ 410.5%
営業利益率		2.5%	10.1%	+ 7.6P	-
経常利益		16	53	+ 37	+ 230.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益/損失		▲ 28	30	+ 58	-
EPS (円)		▲ 32.06	38.11	+ 70.18	-
為替レート (円)	USD	145	160	+ 15	-
	EUR	163	185	+ 22	-

2026年度 1 Q：営業利益 増減分析(前年同期比)

USHIO

事業全般で堅調に推移したことに加え、評価損の戻し入れ(特殊要因)が発生したことで増益幅が拡大

単位：億円



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 6

営業利益39億円増益の内訳です。

事業全般で堅調に推移したことに加え、評価損の戻し入れが発生したこと。
また、構造改革による効果も計画通り発現したことなどから、
前年同期から増益幅が大きい結果となりました。

続いて、セグメント別の業績をご説明します。

(スライド8ページへ)

2026年度 1 Q : セグメント別業績



単位：億円		2025年度 1 Q実績	2026年度 1 Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	158	205	+ 47	+ 29.9%
	営業利益 (営業利益率)	3 (2.1%)	28 (14.0%)	+ 25 (+ 11.9P)	+ 777.4% -
Visual Imaging	売上高	183	230	+ 47	+ 25.8%
	営業利益 (営業利益率)	3 (1.9%)	13 (6.0%)	+ 10 (+ 4.1P)	+ 290.9% -
Life Science	売上高	15	21	+ 5	+ 34.2%
	営業利益 (営業利益率)	1 (7.2%)	2 (10.6%)	+ 1 (+ 3.4P)	+ 98.6% -
Photonics Solution	売上高	23	30	+ 6	+ 29.1%
	営業利益 (営業利益率)	2 (9.8%)	4 (15.8%)	+ 2 (+ 6.1P)	+ 109.2% -
その他	売上高	3	2	▲ 0	▲ 10.6%
	営業利益 (営業利益率)	▲ 0 (▲ 7.3%)	0 (10.5%)	+ 0 (+ 17.9P)	- -
連結合計	売上高	383	489	+ 106	+ 27.7%
	営業利益 (営業利益率)	9 (2.5%)	49 (10.1%)	+ 39 (+ 7.6P)	+ 410.5% -

2026年度 1 Q : Industrial Process事業

USHIO

単位：億円	2025年度 1 Q実績	2026年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	158	205	+ 47	+ 29.9%
営業利益	3	28	+ 25	+ 777.4%
営業利益率	2.1%	14.0%	+ 11.9P	-
サブセグメント別売上高				
露光用ランプ	37	59	+ 21	+ 57.6% ①
OA用ランプ	13	13	+ 0	+ 2.0%
光学機器用ランプ	28	59	+ 30	+ 106.7% ①
光源事業合計	80	132	+ 52	+ 65.9%
露光装置	38	36	▲ 2	▲ 5.3% ②
光学装置その他	40	36	▲ 3	▲ 8.7% ③
光学装置事業合計	78	72	▲ 5	▲ 7.0%
Industrial Process事業合計	158	205	+ 47	+ 29.9%

■売上高：前年同期比 47億円増収

OSRAM事業買収の影響(約+40億円)を除く増減コメント

- 半導体関連の需要増により、関連する光源の販売が増加 ①
- ステッパ露光装置の販売が減少(検収のタイミングにより) ②
- 主にEUVメンテナンス収入の減少 ③

■営業利益：前年同期比 25億円増益

- 前期計上の評価損の減少(+ 7 億円)
- 評価損の戻し入れ益を計上(+10億円)
- 露光装置関連の将来投資(開発投資)を継続
- OSRAM事業買収の影響は軽微

Copyright © Ushio Inc., All Rights reserved. 8

インダストリアルプロセス事業です。

売上高47億円増収のうち、約40億円は、オスラム事業買収による増加です。

それ以外では、半導体関連の光源が需要の高まりにより販売増加し、増収に貢献しました。一方で、露光装置は、検収のタイミングによりステッパ露光装置の販売が前年同期比で減少。光学装置その他では、現在のEUV事業の終息判断でメンテナンス収入が減少しました。

なお、今期の露光装置については、下期の比重が高くなっております。

営業利益は、前期に計上した評価損の減少 7 億円に加え、滞留棚卸資産に対する評価損の戻し入れによる10億円の益が発生しています。

なお、将来に向けた開発投資は継続しています。その結果、25億円の増益となりました。

2026年度 1 Q : Visual Imaging事業

USHIO

単位：億円	2025年度 1 Q実績	2026年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	183	230	+47	+25.8%
営業利益	3	13	+10	+290.9%
営業利益率	1.9%	6.0%	+4.1P	-
サブセグメント別売上高				
プロジェクター用ランプ	22	41	+18	+81.4% ③
照明用ランプ	7	16	+9	+118.1%
光源事業合計	30	57	+27	+90.7%
シネマ	75	73	▲2	▲2.8% ②
一般映像	76	98	+21	+28.2% ①
映像装置事業合計	152	172	+19	+12.8%
Visual Imaging事業合計	183	230	+47	+25.8%

■売上高：前年同期比 47億円増収

OSRAM事業買収の影響(約+30億円)を除く増減コメント

- エンタメ分野の映像演出ニーズが堅調に推移し、販売が増加 ①
- 前年同期の案件反動で、販売台数が減少 ②
- レーザー化の浸透が継続し販売数は減少も、円安効果等で増収 ③

■営業利益：前年同期比 10億円増益

- 構造改革効果が発現し、増益に寄与
- OSRAM事業買収の影響は若干のマイナス影響

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 9

ビジュアルイメージング事業です。

売上高47億円増収のうち、約30億円は、オスラム事業買収による増加です。

それ以外では、エンターテインメント分野での映像演出ニーズの高まりにより、一般映像案件が堅調に推移し増収に寄与しました。

一方で、
シネマは、前年同期比で案件が減少した影響で、
デジタルシネマプロジェクターの販売が減少。
シネマ用ランプは、レーザープロジェクターの浸透が進み販売が減少しました。

営業利益は、
前期実施の構造改革効果が発現し、10億円の増益となりました。
なお、オスラム事業買収の影響として、若干のマイナス影響がありました。

2026年度 1 Q : Life Science事業 /Photonics Solution事業

USHIO

Life Science事業

単位：億円	2025年度 1 Q実績	2026年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	15	21	+5	+34.2%
営業利益	1	2	+1	+98.6%
営業利益率	7.2%	10.6%	+3.4P	-

■売上高：前年同期比 5 億円増収

- OSRAM事業買収の影響による増収

■営業利益：前年同期比 1 億円増益

- 新規案件の投資対象見極め効果が継続し黒字を維持

Photonics Solution事業

単位：億円	2025年度 1 Q実績	2026年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	23	30	+6	+29.1%
営業利益	2	4	+2	+109.2%
営業利益率	9.8%	15.8%	+6.1P	-

■売上高：前年同期比 6 億円増収

- 半導体向け販売が堅調
- OSRAM事業買収の影響による増収

■営業利益：前年同期比 2 億円増益

- 案件の選択と集中による効果が継続し黒字を維持

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 10

ライフサイエンス事業です。

売上高の増収 5 億円は、オスラム事業買収の効果によるものです。
既存事業は堅調に推移しています。

営業利益は、
前期に取り組んだ案件見極めの効果が継続し、黒字を維持しています。

最後に、フォトニクスソリューション事業です。

売上高は、
半導体向けでデバイス、モジュールともに販売が堅調に推移したほか、
オスラム事業買収の効果により、6 億円の増収となりました。

営業利益は、
前期に取り組んだ案件の選択と集中の効果が継続し、黒字を維持しています。

続いて、通期業績予想についてご説明します。

(スライド12ページへ)

I. 2026年度 1Q業績概要

II. 2026年度 通期業績予想

III. 決算トピックス

IV. 参考資料

2026年度 通期業績予想：財務ハイライト



通期業績予想は据え置き

利益の進捗率は高い水準も、評価損の戻し入れ益計上(1Q)による一時的な要因や、今後の部材高騰等の不透明要素を精査中

単位：億円	2025年度 実績	2026年度 予想	前年同期比		通期予想に対する 1Q進捗率
			増減額	増減率	
売上高	1,792	2,100	+307	+17.2%	23.3%
営業利益	119	140	+20	+17.1%	35.3%
営業利益率	6.7%	6.7%	▲0.0P	-	-
経常利益	133	140	+6	+4.9%	37.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	79	105	+25	+31.3%	28.8%
EPS（円）	94.88	132.27	+37.38	+39.4%	-
ROE	4.0%	5.2%	+1.2P	-	-
年間配当（円）	70	70	-	-	-
為替レート（円）	USD	150	+3	-	-
	EUR	174	+4	-	-

・1Q累計期間為替レート実績：USD：160円、EUR：185円、2Q以降の為替レート前提：USD：150円、EUR：175円
・（参考）為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.4億円
*中国による輸出規制や中東情勢の影響については、現時点で判明している影響を業績予想に反映しております。一方、原材料価格や輸出コストの高騰など、今後の長期的な影響は不確定要素が多く、予想に織り込んでおりません。引き続き関連動向を注視し、必要に応じて適切に対応してまいります。

通期業績予想は、冒頭でも触れた通り、期初計画を据え置きとしています。

当第1四半期は、良いスタートを切ることができました。
また後ほどご説明しますが、今後の露光装置の販売拡大に向け、
引き合いおよび受注が順調に増加しています。

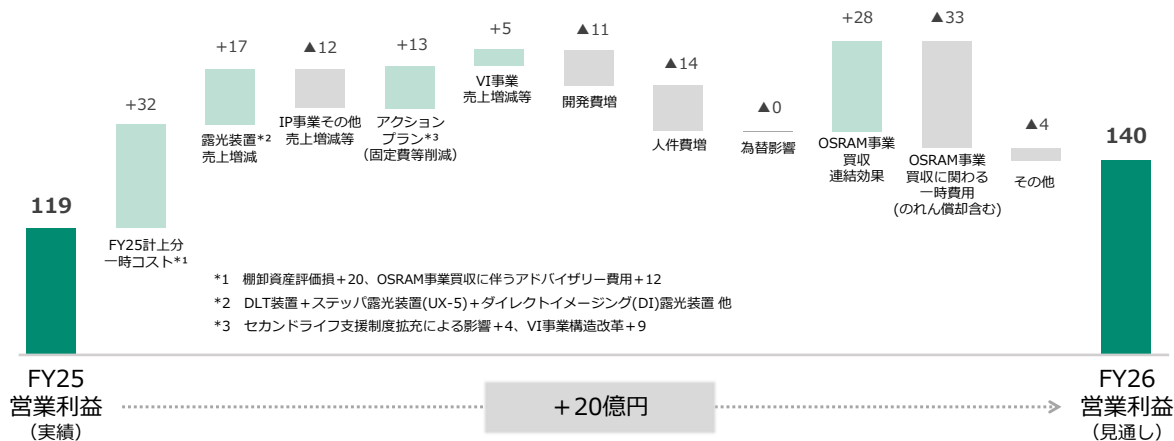
一方で、光源の原材料を中心に価格高騰が継続しており、
当社としても、都度、各種対策を講じている状況です。
加えて、米国の関税措置についても、さらなる発動が進んでおり、
注視していく必要があります。

今後は、これらの影響と対策の効果、ならびに最新の事業環境を継続的に精査しつつ、
動向を注視してまいります。

2026年度 通期業績予想：営業利益 増減分析(前年同期比)

USHIO

期初計画から変更なし



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 13

営業利益20億円増益の内訳については、期初計画から変更はありません。

2026年度 通期業績予想：セグメント別



期初計画から変更なし 単位：億円		2025年度 実績	2026年度 予想	前年同期比		予想に対する 1Q進捗率	2Q以降の見通し
				増減額	増減率		
Industrial Process	売上高	771	925	+153	+19.9%	22.2%	- 露光装置：販売は下期拡大(下期偏重) - 半導体関連の光源事業：堅調に推移見込み 参考：OSRAM事業買収効果 FY26通期：売上高+121億円
	営業利益 (営業利益率)	64 (8.4%)	75 (8.1%)	+10 (▲0.3P)	+15.6% -	38.2% -	
Visual Imaging	売上高	838	965	+126	+15.0%	23.9%	- 構造改革効果：継続 - 一般映像：販売は堅調に推移見込み - シネマ：季節性により増加見込み 参考：OSRAM事業買収効果 FY26通期：売上高+116億円
	営業利益 (営業利益率)	46 (5.6%)	60 (6.2%)	+13 (+0.7P)	+28.5% -	22.9% -	
Life Science	売上高	62	90	+27	+43.9%	23.7%	- 売上：堅調に推移見込み - 利益：有望案件の投資継続も、黒字化維持 参考：OSRAM事業買収効果 FY26通期：売上高+27億円
	営業利益 (営業利益率)	1 (2.2%)	1 (1.1%)	▲0 (▲1.1P)	▲28.8% -	226.9% -	
Photonics Solution	売上高	105	105	▲0	▲0.8%	28.6%	- 売上：堅調に推移見込み - 利益：更なる収益改善に向け取り組みを継続 参考：OSRAM事業買収効果 FY26通期：売上高+6億円
	営業利益 (営業利益率)	5 (5.3%)	5 (4.8%)	▲0 (▲0.6P)	▲11.4% -	95.0% -	
その他	売上高	13	15	+1	+11.1%	18.7%	
	営業利益 (営業利益率)	1 (13.6%)	▲1 (▲6.7%)	▲2 (▲20.3P)	- -	- -	
連結合計	売上高	1,792	2,100	+307	+17.2%	23.3%	業績に影響する動向を注視 ・部材高騰：動向及び対策効果 ・関税・地政学的リスク：米国の関税強化影響など ・AI需要：変化の動向
	営業利益 (営業利益率)	119 (6.7%)	140 (6.7%)	+20 (▲0.0P)	+17.1% -	35.3% -	

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 14

各セグメントの通期業績予想についても、変更はありません。

第2四半期以降の各セグメントの最新見通しについて簡単にご説明します。

インダストリアルプロセス事業では、現時点で、露光装置の年間販売計画に変更はありませんが、現在、多くの引き合い案件に対し納期調整を行っています。好調に推移している半導体に関連する光源は、第2四半期以降も堅調に推移する見込みです。

ビジュアルイメージング事業は、第1四半期で好調に推移した一般映像が、引き続き堅調に推移する見込みですが、現在、各案件の確認を行っています。シネマは、季節性により、第2四半期以降の販売増加を見込んでいます。

ライフサイエンス、フォトンクスソリューション事業はともに、オスラム買収影響を除けば売上はほぼ横ばいで推移し、かつ黒字を維持していく見込みです。

なお、光源事業において、一部部材の高騰が続いており、影響を最小限に抑えるべく価格調整などで対応中です。これらの影響および対策効果を精査中です。

また、米国の関税措置など、不透明な地政学的リスク等もあり、引き続き、これらの動向を注視してまいります。

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

新成長戦略の方針：
FY24～FY26:下限配当70円/年を設定

2026年度 **70円/年（予定）**

自社株投資

【自己株式取得の方針】

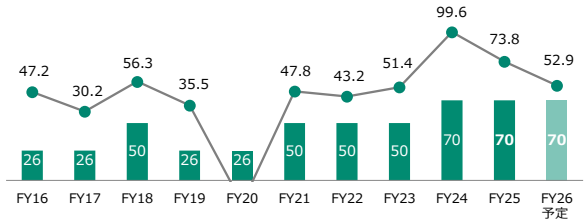
機動的に実施

新成長戦略の方針：
FY24～FY26で累計500～600億円の
自社株投資を実施予定

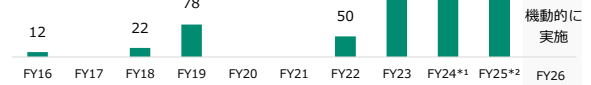
2026年度
機動的に実施

■ 配当金 ● 配当性向

単位：円



単位：億円



*1 2025年4月4日取得分まで含む

*2 2026年4月28日取得分まで含む

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 15

株主還元についてご説明します。

期初からの変更はなく、今年度の配当は、1株当たり70円。
自社株投資は、機動的に実施を検討していく考えです。

最後に、露光装置事業の最新状況をご説明します。

(スライド17ページへ)

I. 2026年度 1Q業績概要

II. 2026年度 通期業績予想

III. 決算トピックス

IV. 参考資料

受注、引き合いの進展状況

■ DLT装置：量産用途での採用が内定

- ・ 一部顧客で量産用途での採用内定を取得 (New)
- ・ 一部顧客で将来のサブストレート基板の技術進化(大判化等)を見据えた採用が決定 (New)
- ・ FY27以降(本格的な量産適用はFY28以降)に業績貢献拡大の見通し



■ ステッパ露光装置(UX-5)：量産安定性重視で、受注・引き合いは増加中

- ・ 当社ステッパ露光装置の量産安定性を高く評価され、来期以降の販売拡大に向け受注・引き合いは増加中 (継続)
- ・ 主要な大手サブストレート基板メーカー各社での採用が進展 (継続)
- ・ FY27からの業績貢献拡大を想定



■ ダイレクトイメージング(DI)露光装置：足元で需要が拡大中

- ・ PCB基板においてAIサーバー向け中心に重厚基板用途等で需要が増加 (継続)
- ・ 光モジュール等の需要拡大に伴い、高精細パッケージ基板向けで需要が増加 (継続)



共通：外部パートナーの協力を得ながら生産拡大の体制を整備し、需要の増加を着実に取り込む

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 17

DLT装置は、一部顧客で量産用途での採用が内定しました。
また、将来のサブストレート基板の技術進化を見据えた採用も決定しました。
来年以降の本格立ち上がりに向け着実に進展しています。

ステッパ露光装置は、引き合いや受注が順調に増加しています。
サブストレート基板における量産安定性を重視するお客様から、
多くの採用実績や安定した性能を高く評価いただいています。
その結果、主要な大手サブストレート基板メーカー各社で採用が進んでいます。

ダイレクトイメージング露光装置については、PCB基板において、
AIサーバー向けを中心に、当社が得意とする重厚基板の需要を取り込むことで、
堅調な販売を見込んでいます。
加えて、光モジュール等の需要拡大により、高精細なパッケージ基板での
需要が増加しています。

このように各露光装置の事業環境は良好であり、
外部パートナーの協力を得ながら生産体制の整備を行うことで、
これらの需要を着実に取り込んでいく方針です。

以上で、私からの説明を終わります。

半導体アドバンスドパッケージ関連の露光装置

USHIO

■半導体アドバンスドパッケージに関連する露光装置*の売上高推移イメージ

* DLT装置 + ステツパ露光装置(UX-5) + ダイレクトイメージング(DI)露光装置

本格的な
立ち上がり・回復による
業績貢献は
FY27以降を想定

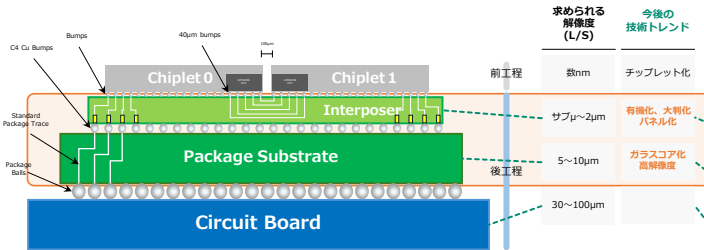
各露光装置ともに、FY27以降の販売拡大に
向けた受注・引き合いは着実に増加中

イメージ

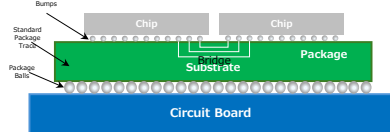


- I. 2026年度 1Q業績概要
- II. 2026年度 通期業績予想
- III. 決算トピックス
- IV. 参考資料

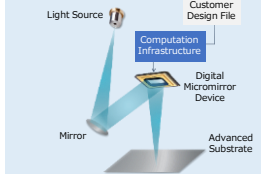
生成AIに求められる次世代パッケージ構造とウシオの製品ラインアップ



参考：従来型の半導体先端パッケージ(イメージ図)

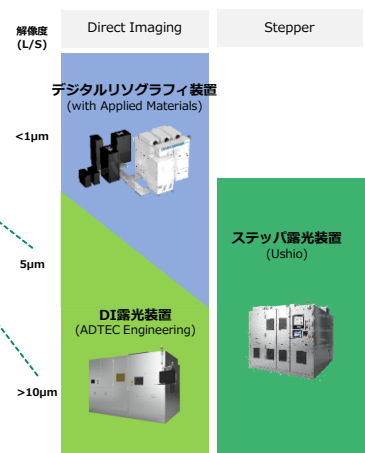


デジタルリソグラフィ装置(イメージ図)

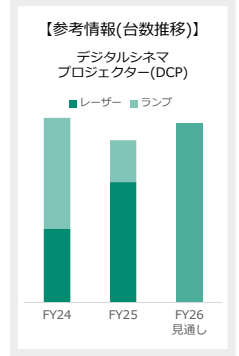
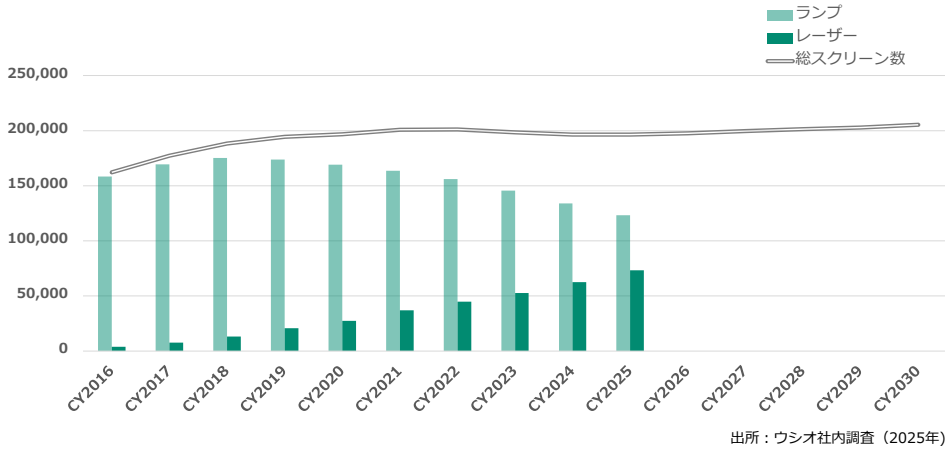


- 【特徴】
- フォトマスクなしで基板への直接転写可能
 - フィールドサイズの制限なし
- 【仕様】
- 解像性能: 1µm to 5µm
 - Overlay: ±0.35µm
 - 最大基板サイズ: 510mm×515mm

ウシオの露光装置ラインアップ



■光源別シネマスクリーン数及び総数の推移予想



■一般映像の事例紹介

世界のさまざまなシーンで革新的な映像体験に貢献

米国

ChristieのProAVプロジェクター及びLEDビデオウォールは、米国のUniversal Destinations & Experiencesのテーマパーク(Epic Universe、Universal Studios Hollywood、Universal Orlando Resort)に採用されています。これらの製品は、ダークライド、プレショー、待機列向けエンターテインメント、特別イベント演出など、**色の再現性、総合的な映像品質、1日16時間・通年稼働を支える信頼性**が求められる場面で活躍しています。

*中国のUniversal Beijing Resortや日本のUniversal Studios Japanでも採用されています

CHRISTIE®

The official projection systems provider
for Universal Orlando Resort™
& Universal Studios Hollywood™



中国

ChristieのGriffyn® 4K50-RGBピュアレーザープロジェクターは、ユネスコ世界遺産をテーマにしたアトラクション「Flying By Chang Bai Mountain」に採用され、**高輝度で没入感のある映像体験**を実現しています。

また、吉林省のChangbai Mountain Performing Arts Centerにも、ChristieのProAVプロジェクターが複数台導入されています。



【参考情報(台数推移)】

一般映像向けプロジェクター



Christieの映像ソリューションを支える主要製品と全世界で採用される理由

主な特徴と優位性

3DLP Projector



MicroTiles LED



シネマスクリーンから大型施設向けProAVまで、卓越した映像性能を実現

- ・業界をリードする映像性能：ネイティブ4K、広色域(P3/Rec. 2020)、高輝度出力により、優れた色再現性、明るさ、コントラストを実現。プレミアムな映像体験を提供
- ・統合ソフトウェアと自動化による導入効率の向上：高度なワーピング、ブレンドリング、自動アライメント、再キャリブレーション、モニタリング・制御ツールにより、複数台のプロジェクターを使用する環境でも、迅速な導入と安定した映像品質を実現
- ・エンドツーエンドのソリューションパートナー：長年にわたるグローバルでの導入実績と専門知見を活かし、設計段階から導入、運用後のサポートまで、ライフサイクル全体を通じて支援
- ・大規模用途で実証された性能：シネマコンプレックスからプロジェクションマッピング、アリーナ、ミュージアムまで、幅広い用途で安定した性能を発揮
- ・TCO*の低減に貢献：省電力性に優れたレーザープラットフォームとソフトウェア主導のアップグレードにより、性能向上を図りながら、消費電力の低減とレーザー光源の長寿命化を実現

*TCO: Total cost of ownership

複雑なカスタム環境にも柔軟に対応

モジュール構造により、シームレスなスケール拡張、曲面構成、視野範囲のカスタマイズが可能。シミュレーションドームから大規模な没入型体験まで、幅広い用途に対応

高い没入感を実現する映像性能

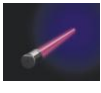
優れたコントラスト、暗部表現、低遅延性能により、トレーニング、シミュレーション、体験型アプリケーションにおいて重要となるリアルな映像表現を実現

効率性と信頼性を両立

フリップチップ、コモンカソードなどの先進的なLED設計により、消費電力、発熱、メンテナンス負荷を低減し、システムのライフサイクル全体におけるTCOの低減に貢献。Christie史上最高水準のエネルギー効率を実現

事業セグメントと主な製品

USHIO

事業セグメント	主要事業・製品	製品例
Industrial Process	光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： 露光装置、キュア装置、保守メンテナンスサービス他	 露光用ランプ  OA用ランプ  エキシマランプ  ステップ露光装置  DI露光装置  DLT装置
Visual Imaging	光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他	 シネマ用ランプ  データプロジェクター用ランプ  デジタルシネマプロジェクター  一般映像用プロジェクター  ディスプレイLEDウォール  映像周辺機器
Life Science	光源：Care222[®]搭載モジュール他 装置：紫外線治療機器他	 抗ウイルス・除菌技術 Care222 [®] 搭載モジュール  紫外線治療機器 「セラビーム [®] 」シリーズ
Photonics Solution	光源：固体光源	 固体光源 (LD/LED)  レーザーモジュール

Copyright © Ushio Inc., All Rights reserved. 24

四半期推移《損益》

USHIO

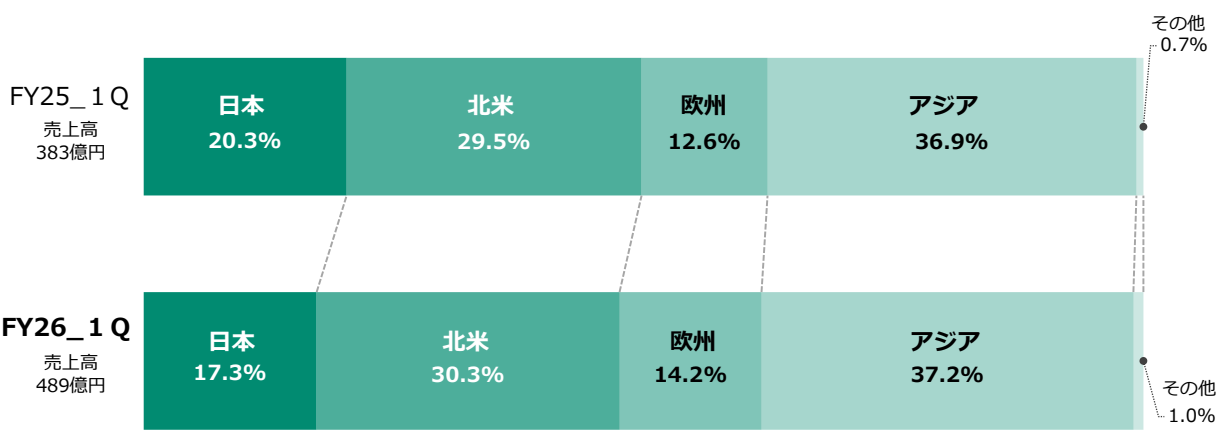
単位：億円		2025年度				2026年度	前年同期比	
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	増減額	増減率
売上高		383	430	455	522	489	+106	+27.7%
営業利益		9	30	37	42	49	+39	+410.5%
営業利益率		2.5%	7.1%	8.2%	8.1%	10.1%	+7.6P	-
経常利益		16	34	38	44	53	+37	+230.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益/損失		▲28	30	37	39	30	+58	-
EPS(円)		▲32.06	35.72	46.08	49.08	38.11	+70.18	-
為替レート(円)	USD	145	147	153	155	160	+15	-
	EUR	163	171	178	184	185	+22	-

四半期推移《セグメント別損益》

USHIO

		2025年度				2026年度	前年同期比	
単位：億円		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	158	186	185	241	205	+ 47	+ 29.9%
	営業利益	3	17	17	26	28	+ 25	+ 777.4%
	営業利益率	2.1%	9.2%	9.5%	11.1%	14.0%	+ 11.9P	-
Visual Imaging	売上高	183	197	225	233	230	+ 47	+ 25.8%
	営業利益	3	14	17	10	13	+ 10	+ 290.9%
	営業利益率	1.9%	7.4%	7.8%	4.7%	6.0%	+ 4.1P	-
Life Science	売上高	15	16	14	15	21	+ 5	+ 34.2%
	営業利益	1	0	0	▲0	2	+ 1	+ 98.6%
	営業利益率	7.2%	3.3%	2.8%	▲4.6%	10.6%	+ 3.4P	-
Photonics Solution	売上高	23	26	27	29	30	+ 6	+ 29.1%
	営業利益	2	▲1	1	3	4	+ 2	+ 109.2%
	営業利益率	9.8%	▲5.3%	5.9%	11.0%	15.8%	+ 6.1P	-
その他	売上高	3	3	3	3	2	▲0	▲10.6%
	営業利益	▲0	▲0	0	2	0	+ 0	-
	営業利益率	▲7.3%	▲6.4%	5.8%	59.7%	10.5%	+ 17.9P	-
連結合計	売上高	383	430	455	522	489	+ 106	+ 27.7%
	営業利益	9	30	37	42	49	+ 39	+ 410.5%
	営業利益率	2.5%	7.1%	8.2%	8.1%	10.1%	+ 7.6P	-

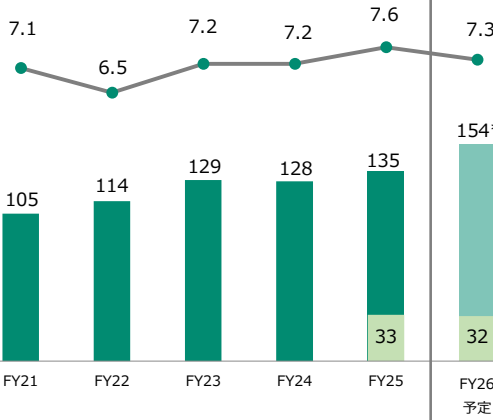
地域別売上高比率



研究開発費／設備投資額・減価償却費

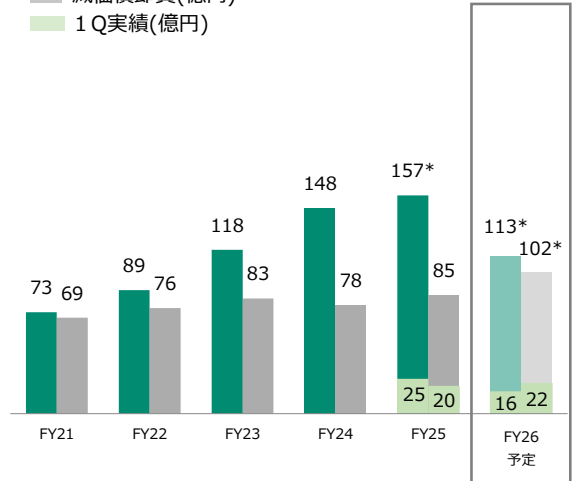
USHIO

■ 研究開発費(億円)
 — 売上高研究開発費率(%)
 ■ 1Q実績(億円)



*OSRAM事業買収に伴う増加分を含む

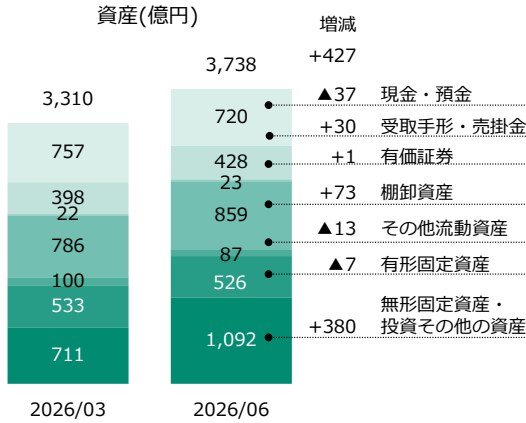
■ 設備投資額(億円)
 ■ 減価償却費(億円)
 ■ 1Q実績(億円)



*OSRAM事業買収に伴う増加分を含む

貸借対照表

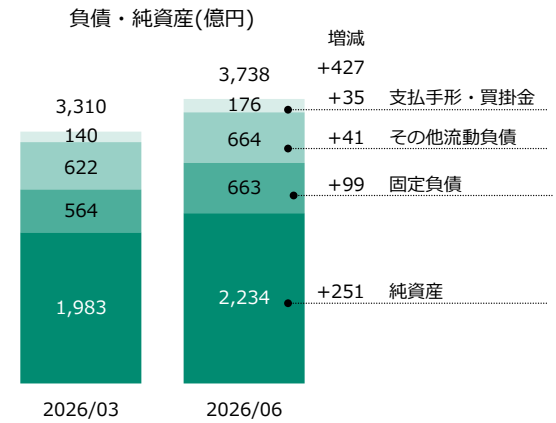
USHIO



2026/03

2026/06

回転月数(ヶ月)	2026/03	2026/06
売上債権	2.7	2.5
棚卸資産	5.2	5.0
CCC	6.9	6.6



2026/03

2026/06

参考：2026/03にはOSRAM事業買収に伴う受入資産(155億円*)及び負債(58億円*)、のれん(64億円)が含まれます

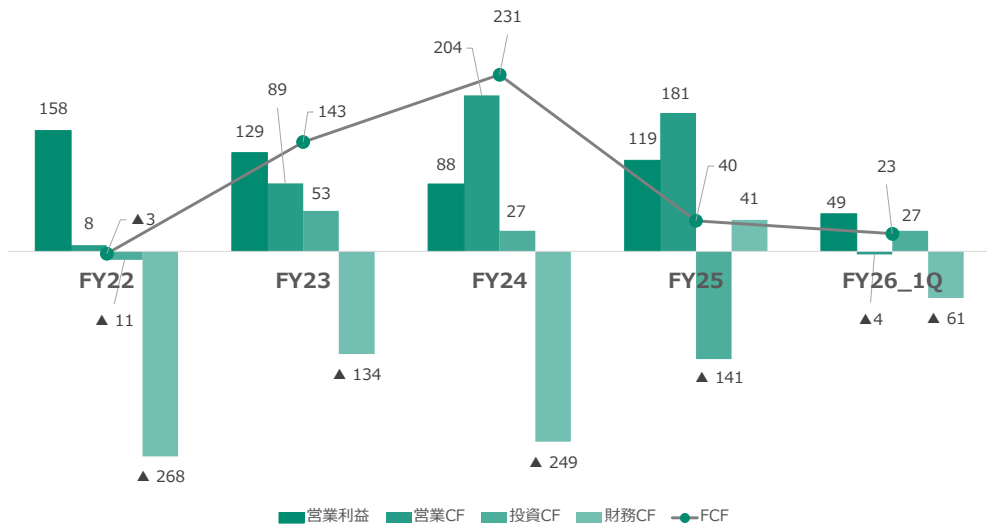
*企業結合日時点の受入資産

自己資本比率(%)	2026/03	2026/06
	59.9	59.8

キャッシュフロー推移

USHIO

単位：億円



Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved. 30

■事業セグメント関連

IP事業	IP business	Industrial Process事業
VI事業	VI business	Visual Imaging事業
LS事業	LS business	Life Science事業
PHS事業	PHS business	Photonics Solution事業

■その他

AI	Artificial Intelligence	人工知能
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
DLT	Digital Lithography Technology	デジタルリソグラフィ技術
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
半導体アドバンストパッケージ (半導体ADP)	Advanced Packaging (ADP)	チップレットをはじめとする半導体の2xD、3D化に対応する最先端の パッケージ分野

IRサイト及びIRメール配信サービスのお知らせ

- ・ 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」では、様々なIR情報を掲載しております。
- ・ 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように **IRメール配信サービス**を導入しております。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

🖥️ オフィシャルWebサイトもご活用ください



投資家情報

統合報告書
(Ushio Report 2025)

「大和インターネットIR表彰 2025」
「優秀賞」受賞



「2025年度 全上場企業ホームページ
充実度ランキング」
「総合部門 最優秀サイト」選定



「Gomez IRサイトランキング2025」
「銅賞」受賞

IRメール配信サービス
ご登録はこちら



<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

ウシオ電機株式会社

IR室

(03) 5657-1007

ir@ushio.co.jp

<http://www.ushio.co.jp/jp/ir>

Copyright© Ushio Inc., All Rights reserved.